

送後 経過日数	動物No.	性別	肺			気管及喉頭			胃			小腸			備考
			最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	
11	モルモット 23	牝	0.015 0.0235	0.060 0.0778	0.038 0.0211	0.015 0.0235	0.001 0.0200	0.005 0.0256	0.015 0.0214	0.001 0.0200	0.000 0.0220	0.033 0.0314	0.001 0.0335	0.071 0.0231	検査ハ脱セルモルモットノ發育ハ認め
21	モルモット 24	牝	0.060 0.0235	0.742 0.0250	0.714 0.0251	0.061 0.0235	0.724 0.0250	0.088 0.0253	0.033 0.0235	0.001 0.0200	0.067 0.0248	0.015 0.0214	0.001 0.0200	0.033 0.0235	同上
31	モルモット 25	牝	0.507 0.0214	0.0724 0.0250	0.073 0.0246	0.061 0.0235	0.724 0.0250	0.083 0.0250	0.015 0.0214	0.001 0.0200	0.067 0.0248	0.015 0.0214	0.001 0.0200	0.033 0.0235	3日ノモルト大腸 チン
61	モルモット 20	牝	0.507 0.0235	0.060 0.0250	0.034 0.0240	0.507 0.0256	0.001 0.0278	0.001 0.0200	0.015 0.0214	0.001 0.0200	0.067 0.0248	0.015 0.0214	0.001 0.0200	0.033 0.0235	形態ニ變化チン
11	家兎 170	牝	0.015 0.0218	0.060 0.0250	0.040 0.0235	0.033 0.0231	0.001 0.0234	0.005 0.0247	0.015 0.0214	0.001 0.0200	0.067 0.0248	0.015 0.0214	0.001 0.0200	0.033 0.0235	著明ノ發育チン
21	家兎 171	牝	0.061 0.0235	0.705 0.0250	0.070 0.0240	0.033 0.0231	0.001 0.0234	0.005 0.0247	0.015 0.0214	0.001 0.0200	0.067 0.0248	0.015 0.0214	0.001 0.0200	0.033 0.0235	同上
31	家兎 22	牝	0.015 0.0235	0.060 0.0250	0.042 0.0210	0.061 0.0235	0.724 0.0250	0.083 0.0250	0.015 0.0214	0.001 0.0200	0.067 0.0248	0.015 0.0214	0.001 0.0200	0.033 0.0235	同上
41	家兎 101	牝	0.033 0.0220	0.724 0.0300	0.000 0.0250	0.015 0.0235	0.705 0.0331	0.005 0.0207	0.015 0.0214	0.001 0.0200	0.067 0.0248	0.015 0.0214	0.001 0.0200	0.033 0.0235	小腸ニアリンモノ 上ニ赤三回脱皮 シテ當ニ發育チ 著明ノ發育チン
61	家兎 61	牝	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	

六十二指腸蟲の完熟仔蟲を仔犬に経口的に感染せしめたる後得たる幼蟲を

家兎に経口的に攝取せしめたる際の蟲體の發育

此の實驗は二列に於て行つて見たのであります、即ち完熟仔蟲を仔犬に経口的に感染させて、種々の時期に呼吸器より得たる幼蟲を家兎に與へたる場合と、消化管内に得たる幼蟲を家兎に與へたる場合とを比較し、傍ら固有宿主及非固有宿主の體內に於ける發育と比較對照して見たのであります。

A、仔犬に経皮感染後、肺及氣管より得たる幼蟲を家兎に経口的に與へたる場合の發育状態の檢索には別表(第三表)の如く之れを再び六列に

分けて檢査して見たのであります。(一)経皮感染後一五時間目に肺臟より得たる幼蟲を四頭の家兎に、(二)二四時間目に肺臟より得たるものを二頭の家兎に、(三)二四時間目に氣管より得たるものを一頭の家兎に、(四)四八時間目に氣管より得たるものを三頭の家兎に、(五)七十二時間目に肺臟より得たるものを二頭の家兎に、(六)七十二時間目に氣管より得たる幼蟲を一頭の家兎に與へて後、二〇時間より六日に亘つて家兎を撲殺して、呼吸器及消化管内を檢査して蟲數を檢査すると共に、其の得たる蟲體の發育状態を檢査したのであります、其の成績は第一回の報告と同様であつて、何等の差時がありません、其の要點のみを述べますと、肺臟及氣管より得たる蟲體には、全體として家兎に集る性質が減少して居る、特に氣管より得たものに著しい様に見られます、又家兎に攝取させて後時日の経過する程、胃、肺及氣管に於ける檢出蟲數が非常に少くなると共に又小腸、大腸に見出される蟲數が比較的多くなり、蟲體の發育も加はつて、攝取後未だ時間を経ないものでは肺臟より得たものも氣管より得たものも、口囊の原基のないものがあるが、時間の経過と共に必ず之くが形成されて、第四日目頃に見出されるものは其の蟲數は全體として少いが總て第三回の脱皮をなし居る、第六日目には第四回の脱皮をなし居るものすら見出され、其の大きさは非常に大なるものがある、尙之れより時日を経ると、第一回の報告に見る様に體內に卵子を形成するの認められることが出来たのであります。

B、仔犬に経皮感染後小腸より得たる幼蟲を家兎に経口的に與へた場合の發育状態を見る爲めに之れを二列に分けて觀察した、即ち(一)仔犬に感染後四八時間目に得たる幼蟲を五頭の家兎に、(二)七〇時間目に得たるものを六頭の家兎に與へて種々の時期に家兎を殺して、檢査した所によると、家兎に與へた幼蟲は殆んど肺臟に移行する性能がないことは前報の所見の通りである、時日の経過と共に蟲體の檢出數は著しく少くなるが、然し小腸に見出された蟲體は何れも發育して居る、即ち檢出せられたる蟲體の一〇〇%に於て發育を認めることが出来る、呼吸器より得たものと消化管より得たものとに於て家兎の體內に於ける態度に如何なる相違があるかといふに、家兎の肺臟に集る性能に多少の相違がある様に思はれる又檢出し得られる蟲數が腸管より得た幼蟲の場合の方が多様に思ふが大なる差はない。

固有宿主の肺臟を通過したものを家兎に與へたる場合の發育率と固有宿主に與へたそれとの間には非常の相違がある、其の原因は何にあるかは到底説明することは出来ない、兎に角家兎に経口感染後時日を経ることの少いもの程多數の蟲體を得られるが、之れが次第に消失する然し残つて居るものは大に發育する、私等の今回の實驗では未だ産卵し得る迄には發育して居るものを得られなかつた。

第3表ノ1 仔犬ニ經皮感染後肺及氣管ヨリ得タル幼蟲ヲ家兎ニ經口的ニ與ヘタル場合、其ノ體內ニ於ケル分布状態

(投與1%ノ投與數ニ對シテ%) 檢査1%ノ檢出蟲數ニ對シテ%、以下皆同シ









頭部腫瘍ヲ注入 1時間後ニ取 リ	106	2,300	92	3,000	470	16.67	120	14.0	60.36	42	1.4	8.04	2	0.067	0.43	1	0.033	0.21	5	0.10	1.00
仔犬 No. 216	122	2,000	5 11	3,000	70	2.33	12	0.4	17.14	23	0.76	32.80	—	—	—	20	0.86	37.14	9	0.3	12.80
仔犬 No. 216	97	2,300	20時間	1,000	290	39.00	108	10.8	30.49	—	—	—	108	10.8	50.76	12	1.2	4.05	8	0.8	2.70
仔犬 No. 216	99	2,000	41	2,600	952	38.08	436	17.44	45.79	397	15.85	41.70	88	3.52	9.24	9	0.36	0.95	22	0.88	2.32
仔犬 No. 216	100	2,000	90	2,600	184	7.36	155	6.2	81.24	20	0.8	10.87	9	0.12	1.64	4	0.16	2.17	2	0.08	1.09
仔犬 No. 216	101	1,800	5 11	1,000	30	3.00	6	0.6	29.0	7	0.7	29.33	—	—	—	2	0.2	4.07	15	1.5	40.00
仔犬 No. 213	95	1,800	88時間 (4 11)	1,000	187	18.70	128	12.6	68.45	37	3.7	19.70	9	0.3	1.60	18	1.8	0.63	1	0.1	0.53

第5表2 仔犬ノ頭部腫瘍ヲ注入シテ得タル仔犬ノ頭部腫瘍ニ與ヘタル場合

第一次感染後仔犬ノ形態	家 No.	経過時間	第二次感染後即ニ於ケル仔犬ノ形態									
			體 長	體 幅	食 道 長	食 道 幅	生 殖 器 原 形 態	肛 門 モ ノ 形 態	口 腔 原 形 態	第一次ノモ トノ比較		
仔犬 No. 218	108	70時間	0.962	0.0297	0.101	0.0154	0.0119	0.0770	カ	シ	著明ノ發育チン	
仔犬 No. 218	109	92	0.690	0.0248	0.100	0.0141	0.0151	0.0760	カ	シ	同上	
仔犬 No. 218	122	5 11	0.806	0.0260	0.179	0.0162	0.0162	0.0700	カ	シ	僅カニ發育セルモノアリ	
仔犬 No. 218	98	20時間	0.640	0.0233	0.150	0.0141	0.0138	0.0740	カ	シ	著明ノ發育チン	
仔犬 No. 218	99	44	0.375	0.0248	0.101	0.0154	0.0145	0.0770	カ	シ	同上	
仔犬 No. 218	100	90	0.705	0.0260	0.175	0.0154	0.0077	0.0770	カ	シ	僅ニ發育セルモノアリ	
仔犬 No. 218	101	5 11	0.635	0.0248	0.100	0.0154	0.0145	0.0770	カ	シ	著明ノ發育チン	
仔犬 No. 213	95	88時間	0.687	0.0256	0.164	0.0145	0.0103	0.0770	カ	シ	著明ノ發育チン	

其ノ肺及小腸ニ於ケル仔犬ノ發育状態

仔 犬 No.	體 幅	體 長	食 道 長	食 道 幅	第二次感染後小腸ニ於ケル仔犬ノ形態		第一次ノモ トノ比較		
					生 殖 器 原 形 態	肛 門 モ ノ 形 態			
0.661	0.0256	0.168	0.0149	0.0149	0.0149	0.0813	カ	シ	著明ノ發育チン
0.687	0.0256	0.171	0.0171	0.0522	0.0171	0.0813	カ	シ	同上
1.7	0.0834	0.310	0.0834	0.0834	—	0.0884	カ	シ	12匹ハキセルノ區別ヲ得ラルベシニ發育セルモ14匹ハ全ク發育セス
1.9	0.0834	0.334	0.0877	0.0877	—	—	カ	シ	發育チン
0.929	0.0239	0.150	0.0141	0.0141	0.0128	0.0727	カ	シ	著明ノ發育チン
0.661	0.0244	0.161	0.0141	0.0141	0.0130	0.0744	カ	シ	著明ノ發育チン
1.037	0.0580	0.231	0.0576	0.0576	0.0266	0.0813	カ	シ	同カニ發育ス
1.7	0.0770	0.307	0.0470	0.0470	—	—	カ	シ	交接後ニテ形成シテニ發育セリ
1.674	0.0854	0.271	0.0470	0.0470	—	—	カ	シ	キノ腔門ヲモハニ交接後ニテ形成シテニ發育ス
1.303	0.0813	0.271	0.0428	0.0428	—	—	カ	シ	第3回100%

B 仔犬ニ成熟した六十二指腸腫仔犬を経路的に感染させ、其の皮膚組織より得たる幼蟲を家兎に與へたる場合

此の實驗は四列に分けて行つて見た。(一)皮膚に感染後六時間目に皮膚組織より分離した幼蟲を家兎に與へたる場合、(二)二時間目に分離したものを家兎に與へたる場合、(三)四時間目に分離したものを家兎に與へたる場合、(四)八時間目に分離したものを家兎に與へたる場合、(五)四八時間目に分離したものを家兎に與へたる場合がそれぞれある、其所見を總覽して共通した點を述べると家兎の體內に於ては大半は肺臟内に集る、少數が消化管に來る、然かも六時間目、一二時間目に皮膚より得たものでは其の数が極めて少シ、二四時間目、四八時間目に得たものでは其の数が多少増して來る様である、肺臟内にあるものは一般に著明の發育は認められないが二四時間以後に皮膚より得たものを感染せしめた際に時々口齶原基を認めることがあつた位である、小腸に於ける所見も亦時間的に多少の相違がある、六時間目、一二時間目に皮膚より分離したものを家兎に與へた場合は殆んど發育がないと言つてよい、此の所見は肺臟より分離した幼蟲の感染の場合とは著しい相違である、二四時間目、四八時間目、に皮膚より分離、感染した場合は少數に於て發育せるものがあるが、可なりの時日を経過するに係らず、何等の發育を爲さないものもある、此の所見も亦肺臟に依つて處置せられたものとは非常の





直接注射 入投時間 マシタムモノ	141 192	2,000 1,900	92 8	6,000 6,000	482 40	7.20 0.816	142 9	2.97 0.16	92.87 18.97	177 14	2.95 0.239	40.07 28.47	74 4	1.28 0.087	17.18 8.10	19 11	0.82 0.189	4.4 22.45	20 11	0.33 0.189	4.68 22.45
------------------------	------------	----------------	---------	----------------	-----------	---------------	----------	--------------	----------------	-----------	---------------	----------------	---------	---------------	---------------	----------	---------------	--------------	----------	---------------	---------------

固有宿主の臓器乳劑によつて處置した犬十二指腸蟲の完全仔蟲を、家兎に與へたる場合の蟲體の發育状態

仔犬の胃壁、腸壁、肺臟、皮膚及皮下組織の食鹽水乳劑を作つて犬十二指腸蟲の完全仔蟲を入れ、三七度の孵卵器内に二時間放置して後に家兎に與へ、三日目、四日目、五日目に家兎を撲殺して仔蟲の分布及發育状態を檢査して見た、先づ仔蟲の分布状態を見るに其の大半は肺臟に集つて居る、其發育状態を見ると肺臟内にあるものは顯著の發育のないことは勿論であつて、時に初期の口囊の原基を有するものがあるが、之れは特に其の数が多くとも思はれない、然るに消化管内に發見せられる蟲體を檢査するに及んで極めて尠かされたのであります、即ち何れの臓器乳劑を用ひても口囊の原基を生じて居るものが比較的多いこと、第三回の脱皮をすらすら爲して居るものも比較的多く見らるゝことでもあります、是等の關係は決して偶然の事ではない其の發育状態など誠に順序を追ふて遂行せられて居ると言ふことが明かであります、即ち固有宿主の臓器乳劑によつて處置せられたといふことが、仔蟲に特殊の性能を與へたことは何等疑ひのない事實と見做すことが出来るのであります、又生體に於て上記の臓器に仔蟲を直接注入して、二時間目に分離したものを、家兎に與へた場合と大なる相違がないのであります、言ひ換へると、犬十二指腸蟲の仔蟲は犬の臓器の食鹽水乳劑によつて一定時間處置することによつて、特殊の性能が附與せられ、非固有宿主たる家兎に播取せしめると、其の腸管内で發育し得る様になるものであります、勿論斯かる性能を附與せられる蟲數は極めて少數であるとはし、可なり興味ある事實と申さねばなるまいと思ひます。

(第7表)ノ2 筋肉、肝臟、腎臟、小腸結核部、脾臟=直接仔蟲ヲ注入シ2時間後之レヲ分離家兎へ

第一次感染後仔蟲ノ形態	家兎 No.	經過時間	第二次感染後卵ニ於ケル仔蟲ノ形態							
			體長	體幅	食道長	食道幅	生殖器 原基	肛門 尾端	口囊原基 マシタムモノ	第一次ノモトノ比較
仔犬 No. 265 筋肉内マシ 體長 0.633 幅 0.0228 食道長 0.160 幅 0.0119 生殖器原基 0.0128×0.0051 肛門マシ尾端 0.0701 脱糞セル外發育ヲ認メズ	128	80-120時間 ノ間ニ死亡	0.667	0.0244	0.190	0.0158	0.0140 0.0072	0.0778	ナ シ	著明ノ發育ナシ 同
仔犬 No. 266 肝臟マシ 體長 0.625 幅 0.0231 食道長 0.163 幅 0.119 生殖器原基 0.0132×0.0051 肛門マシ尾端 0.0744 發育レノ變化ヲ認メズ	132	70 "	0.602	0.0250	0.105	0.0162	0.0154 0.0072	0.0818	ナ シ	著明ノ發育ナシ 同
仔犬 No. 267 腎臟マシ 體長 0.635 幅 0.0228 食道長 0.159 幅 0.0113 生殖器原基 0.0132×0.0051 肛門マシ尾端 0.0744 發育レノ變化ヲ認メズ	134	41 "	0.640	0.0241	0.104	0.0140	0.0145 0.0072	0.0750	ナ シ	著明ノ發育ナシ 同
仔犬 No. 268 小腸マシ 體長 0.603 幅 0.0226 食道長 0.140 幅 0.0111 生殖器原基 0.0128×0.0055 肛門マシ尾端 0.0740 發育レノ變化ヲ認メズ	136	91 "	0.675	0.0252	0.100	0.0158	0.0171 0.0077	0.0813	ナ シ	著明ノ發育ナシ 同
仔犬 No. 269 脾臟マシ 體長 0.611 幅 0.0223 食道長 0.148 幅 0.0112 生殖器原基 0.0119×0.0055 肛門マシ尾端 0.0740 脱糞セル外ニ變化ナシ	138	93 "	0.671	0.0254	0.100	0.0158	0.0158 0.0072	0.0821	ナ シ	著明ノ發育ナシ 同
仔犬 No. 267 小腸マシ 體長 0.603 幅 0.0226 食道長 0.140 幅 0.0111 生殖器原基 0.0128×0.0055 肛門マシ尾端 0.0740 發育レノ變化ヲ認メズ	137	48時間	0.600	0.0251	0.170	0.0158	0.0141 0.0077	0.0787	ナ シ	著明ノ發育ナシ 同
仔犬 No. 267 小腸マシ 體長 0.603 幅 0.0226 食道長 0.140 幅 0.0111 生殖器原基 0.0128×0.0055 肛門マシ尾端 0.0740 發育レノ變化ヲ認メズ	138	04 "	0.678	0.0250	0.108	0.0162	0.0158 0.0084	0.0700	ナ シ	著明ノ發育ナシ 同
仔犬 No. 267 小腸マシ 體長 0.603 幅 0.0226 食道長 0.140 幅 0.0111 生殖器原基 0.0128×0.0055 肛門マシ尾端 0.0740 發育レノ變化ヲ認メズ	139	6 11	0.600	0.0231	0.102	0.0132	0.0130 0.0084	0.0744	ナ シ	著明ノ發育ナシ 同
仔犬 No. 268 脾臟マシ 體長 0.611 幅 0.0223 食道長 0.148 幅 0.0112 生殖器原基 0.0119×0.0055 肛門マシ尾端 0.0740 脱糞セル外ニ變化ナシ	140	12時間	0.698	0.0246	0.171	0.0140	0.0154 0.0088	0.0791	ナ シ	著明ノ發育ナシ 同
仔犬 No. 268 脾臟マシ 體長 0.611 幅 0.0223 食道長 0.148 幅 0.0112 生殖器原基 0.0119×0.0055 肛門マシ尾端 0.0740 脱糞セル外ニ變化ナシ	141	92 "	0.680	0.0246	0.170	0.0154	0.0162 0.0077	0.0790	ナ シ	著明ノ發育ナシ 同
仔犬 No. 268 脾臟マシ 體長 0.611 幅 0.0223 食道長 0.148 幅 0.0112 生殖器原基 0.0119×0.0055 肛門マシ尾端 0.0740 脱糞セル外ニ變化ナシ	142	6 11	0.680	0.0252	0.171	0.0154	0.0140 0.0072	0.0787	ナ シ	著明ノ發育ナシ 同

與ケル場合ノ肺及小腸ニ於ケル仔蟲ノ發育状態

體長	體幅	食道長	食道幅	生殖器原基	肛門マシ 尾端	口囊原基 マシタムモノ	脱皮ノ状態	第一次ノモノトノ比較	
								發育シテ口囊ヲ形成セルモ蟲體死滅セリ	1匹ノ發育セルモノ、他ハ皆小サル
0.699	0.0252	0.166	0.0140	0.0110 0.0051	0.0761	1/10	ナ	發育シテ口囊ヲ形成セルモ蟲體死滅セリ	發育セルモノ3匹ハ發育セズ
0.691	0.0248	0.127	0.0162	0.0158 0.0068	0.0778	1/10	ナ	發育シテ口囊ヲ形成セルモ蟲體死滅セリ	發育セルモノ3匹ハ發育セズ
0.20	0.1070	0.343	0.0599	—	0.0877	1/5	第9回	發育シテ口囊ヲ形成セルモ蟲體死滅セリ	發育セルモノ3匹ハ發育セズ





肥門マリ尾端 0.0744 同上變化ナシ	148	5 日	0.685	0.0261	0.170	0.0162	0.0162 0.0077	0.0804	ナ	同	上
腸胃乳劑中マリ 總長 0.020 總幅 0.0228 皮厚及 0.148 幅 0.0115 生殖器原基 0.0128×0.0051 肥門マリ尾端 0.0487 同上變化ナシ	149	6日時間	0.671	0.0252	0.108	0.0162	0.0162 0.0087	0.0778	ナ	同	上
皮下線皮皮膚乳劑中マリ 總長 0.004 總幅 0.0228 皮厚及 0.148 幅 0.0115 生殖器原基 0.0128×0.0055 肥門マリ尾端 0.0701 同上變化ナシ	150	4 日	0.647	0.0244	0.100	0.0149	0.0158 0.0098	0.0701	ナ	同	上
	151	5 日	0.658	0.0245	0.168	0.0155	0.0158 0.0072	0.0710	ナ	同	上
	152	6日時間	0.649	0.0248	0.165	0.0158	0.0149 0.0072	0.0770	ナ	同	上
	153	4 日	0.644	0.0249	0.160	0.0162	0.0145 0.0050	0.0736	ナ	同	上
	154	5 日	0.676	0.0249	0.168	0.0161	0.0149 0.0059	0.0770	ナ	同	上

器内(37°) = 腹キタルモノヲ家庭ニ與ヘタル場合ノ脚皮小腸ニ於ケル發育狀態

第二次感染後小腸ニ於ケル仔蟲及幼蟲ノ形態											
雌	長	幅	食道長	食道幅	生殖器原基	肥門マリ尾端	口嚢原基 ヲルモノ	脱皮ノ状態	第一次ノモノトノ比較		
0.687	0.0241	0.108	0.168	0.0168	0.0166 0.0059	0.0787	$\frac{3}{8}$	ナ	口嚢原基ヲ有シ價ニ發育セルモノアリ	陰門ヲ生ジ又平衡ヲ區別シ得ル程ニマテ發育セルモノアリ	大ニ發育シ平衡ノ期明カナリ
1.357	0.0481	0.267	0.267	0.0361	—	0.0911	$\frac{11}{16}$	第3回	ナ	陰門ヲ生ジ又平衡ヲ區別シ得ル程ニマテ發育セルモノアリ	大ニ發育シ平衡ノ期明カナリ
♀ 1.54 ♂ 1.63	0.0701 0.0805	0.371 0.296	0.436 0.0505	—	—	0.0898	$\frac{18}{21}$	第3回	ナ	陰門ヲ生ジ又平衡ヲ區別シ得ル程ニマテ發育セルモノアリ	大ニ發育シ平衡ノ期明カナリ
大 1.204 小 0.480	0.0649 0.0248	0.244 0.165	0.0385 0.0154	—	—	0.0950 0.0744	$\frac{2}{7}$	第3回	ナ	2回ダケハ大ニ發育ス	2回ダケハ大ニ發育ス
大 1.293 小 0.680	0.0599 0.0240	0.260 0.171	0.0363 0.0158	—	—	0.0770	$\frac{3}{10}$	第3回	ナ	8回ダケハ大ニ發育ス	8回ダケハ大ニ發育ス
0.651	0.0240	0.165	0.0168	0.0158 0.0077	—	0.0740	ナ	ナ	ナ	器明ノ發育ナシ	器明ノ發育ナシ
0.651	0.0249	0.168	0.0162	0.0149 0.0051	—	0.0753	ナ	ナ	器明ノ發育ナシ	器明ノ發育ナシ	器明ノ發育ナシ

大 1.140 小 0.633	0.0556 0.0235	0.342 0.140	0.0342 0.0149	—	—	0.0727 0.0770	$\frac{4}{5}$	第3回	ナ	4回ダケニ於テ大ニ發育セルヲ見タリ
0.649	0.0265	0.164	0.0158	0.0149 0.0064	0.0787	$\frac{1}{16}$	ナ	ナ	價ニ發育セルモノ1回アリ	
1.016	0.0487	0.224	0.0239	0.0426 0.0098	0.0864	$\frac{10}{15}$	第3回	ナ	生殖器原基ノ數個ニ分裂シ總長・幅・亦大ニ伸ブ	
♀ 1.6 ♂ 1.76	0.0791 0.0834	0.208 0.298	0.0492 0.0513	—	0.0984	$\frac{7}{8}$	第3回	ナ	平衡ヲ明ニ區別出来ルマテニ發育ス	

對照實驗、これは下の四列にして行つて見た。

一、大十二指腸蟲の完熟仔蟲を非固有宿主家兎に投與したる場合。

これは既に上記に詳述したから茲に再び述べないが、極めて稀に初期の口嚢形成及第三回の脱皮をするものがある。

二、モルモットに完熟仔蟲を経口的に感染させ、二四時間後に肺臟より仔蟲を分離して之れを家兎に與へて見たのに口嚢原基形成あるものあれども、其數は多くない、上記の所見と同様である。

三、家兎の耳靜脈より完熟仔蟲を注入して二時間後に肺臟より仔蟲を分離して、之れを再び家兎に與へたのに何等特に發育した状態を認めることが出来なす。

四、家兎の肺臟乳劑を食鹽水によつて作つて、之れに完熟仔蟲を入れ、二時間三七度に置いて後再び家兎に感染させて見たのに何等特殊の現象を認めることが出来なす即ち此の對照實驗の所見を總括すると、非固有宿主たる家兎、モルモットの臟器及其乳劑は大十二指腸蟲に特殊の性能を附與することが出来なすと言ひ得る。

(第9表)ノ1 對照實驗 被檢仔蟲、モルモット、肥門マリ得タル仔蟲、家兎ノ肥門マリ得タル仔蟲、家兎ノ肺臟乳劑ニテ感染シタル仔蟲ヲ家兎ニ與ヘル場合ノ體內分布狀況

使用セル仔蟲	家兎 No.	仔蟲 檢査 回數	總集積 時間 日數	投與 回數	肺		氣管及喉頭		胃		小腸		大腸		備考							
					檢査 回數	投與 % 數	檢査 回數	投與 % 數	檢査 回數	投與 % 數	檢査 回數	投與 % 數	檢査 回數	投與 % 數								
培養液5日ノ被 檢仔蟲	92	2,300	3 日	3,000	90	3.0	59	1.57	65.56	8	0.27	8.89	9	0.3	10.0	11	0.36	12.92	3	0.1	3.33	肺、腸、肝、腎、 食道、検査セ 以下同シ
	106	2,400	4 日	20,000	1,150	6.76	928	4.64	80.70	114	0.57	9.91	37	0.186	3.22	16	0.076	1.80	60	0.29	4.87	



二頭の家兎に該仔蟲を経口的に攝取させて、三日目、五日目に撲殺して、其の体内に於ける蟲體の分布を検査したのに大體胃液の場合と同様に仔蟲の大半は呼吸器内にあつて、極く少數が消化管に見分された、蟲體の發育を見ると、稀に口囊原基、第三回の脱皮をなしたものを見出したが然し上記の犬の胃液で處置した場合に較べると發育して居る蟲數も少く、且つ其の發育の程度も進んで居ないのであることが出来た。

以上の實驗的所見によつて、犬十二指腸蟲の完熟仔蟲は犬の夾雜物のない消化液特に胃液によつて一定時間操作せられると、家兎の腸管内で、發育する性能を與へられることがあるかも知れない様に思はれる、茲に於て仔蟲の胃及腸の内容、人工胃液及腸液による影響を檢査して見るべき必要が生じて來た。

C、仔犬の胃内容及腸の内容に完熟仔蟲を入れ二時間孵卵器に入れた後に家兎に攝取せしめて一定時間の後に家兎を撲殺して檢査したが、終に發育した蟲體を發見することが出来なかつた。

次に人工胃液(鹽酸O、三六、ペプシン四、O、水一〇〇、O、人工腸液(トリプシン一〇七、食鹽O、六、炭酸曹達O、二二、水一〇〇、O)を作り、完熟仔蟲を入れ二時間孵卵に納めて後に家兎に經口的に攝取させ一定時日の後に家兎を撲殺して檢査した所によると、之れ亦何等蟲體の發育を認めることが出来なかつた。

此の三様の實驗によつて、犬十二指腸蟲仔蟲が家兎の体内で發育し得る特殊の性能は犬の消化管より出る酵素若しくは酸、アルカリの作用によつて附與せられるといふよりも、消化液に混入して居る體液又は其中に少許に見出される細胞等の作用によつて附與せられるものと見るのが適當の様に思はれる、故に消化管の内容に唯だ混在して居るだけでは此種の性能に附與せられない臟器組織の内に進入して、其所で始めて變態すると云ふことは此の實驗によつて一層明瞭になつたと信ずる。

(第10表)ノ1 犬ノ胃液、腸液に仔犬ノ胃内容、腸内容及人工胃液、人工腸液中ニ仔蟲ヲ入レ2時間孵卵(37°) 孵卵器内ニ置キタルモノヲ家兎ニ與ヘタル場合ノ体内分布状況

使用セル仔蟲	家兎	仔蟲投	胃		小腸		大腸		備考												
			檢査	投與	檢査	投與	檢査	投與													
犬ノ胃液中ニ入レテ2時間孵卵(37°)ニ置キタルモノ	157	2,200	718時間	7,000	1,306	19,514	1,108	10,658	85,51	160	2,286	11,71	3	0,043	0,22	17	0,243	1,21	18	0,258	1,32
仔犬ノ胃内容中ニ入レテ2時間孵卵(37°)ニ置キタルモノ	158	1,000	5日	7,000	930	4,843	521	86,50	94,00	14	0,20	4,13	—	—	—	2	0,028	0,50	2	0,028	0,50
仔犬ノ腸内容中ニ入レテ2時間孵卵(37°)ニ置キタルモノ	159	2,000	60時間	8,000	1,833	22,012	1,340	10,802	73,40	171	2,138	9,33	205	2,312	14,40	30	0,376	1,04	18	0,325	0,08
仔犬ノ腸内容中ニ入レテ2時間孵卵(37°)ニ置キタルモノ	100	1,700	5日	8,000	391	4,887	117	146,21	29,02	55	0,087	14,07	202	2,525	51,00	0	0,075	1,54	11	0,198	2,81
人工胃液中ニ入レテ2時間孵卵(37°)ニ置キタルモノ	172	2,000	3日	9,000	1,037	18,188	1,368	15,20	83,57	197	2,189	12,03	55	0,011	3,36	10	0,111	0,01	7	0,077	0,43
人工腸液中ニ入レテ2時間孵卵(37°)ニ置キタルモノ	173	2,100	4日	9,000	1,204	13,877	870	9,967	73,20	253	2,811	21,01	63	0,70	5,23	0	0,000	0,40	12	0,133	0,98
人工胃液中ニ入レテ2時間孵卵(37°)ニ置キタルモノ	174	2,000	3日	9,000	1,732	19,244	1,343	14,952	77,54	237	2,634	13,08	144	1,00	8,32	4	0,044	0,23	4	0,044	0,23
人工腸液中ニ入レテ2時間孵卵(37°)ニ置キタルモノ	175	2,000	4日	9,000	750	8,33	627	0,980	83,60	78	0,860	10,4	20	0,288	3,47	4	0,044	0,53	15	0,103	2,0

(第10表)ノ2 犬ノ胃液、腸液に仔犬ノ胃内容、腸内容及人工胃液、人工腸液中ニ仔蟲ヲ入レ2時間孵卵(37°)ニ置キタルモノヲ家兎ニ與ヘタル場合、卵及小腸ニ於ケル仔蟲ノ發育状況

第一次感染後仔蟲ノ形態	家兎	經過時間	第二次感染後卵ニ於ケル仔蟲ノ形態									
			體長	體幅	食道長	食道幅	生殖原基	肛門ヨリ尾端	肛門ヨリ尾端	口囊原基	第一ノモノト比	
犬胃液中ニ入レテ2時間孵卵(37°)ニ置キタルモノ	155	67時間	0,058	0,0297	0,101	0,0778	0,0141	0,0063	0,0736	7/100	口囊原基ヲ有スルモノヲ發見セシ	
犬腸液中ニ入レテ2時間孵卵(37°)ニ置キタルモノ	156	5日	0,004	0,0247	0,160	0,0701	0,0141	0,0055	0,0778	1/100	同	
犬腸液中ニ入レテ2時間孵卵(37°)ニ置キタルモノ	157	71時間	0,058	0,0241	0,160	0,0155	0,0164	0,0072	0,0770	7/100	著明ノ發育ヲ示	
形體變化ナク、脱糞セルモノ少シ	158	5日	0,003	0,0244	0,100	0,0100	0,0100	0,0077	0,0770	7/100	同上	



仔犬胃内容中 = レンダルモノ 幼長 0.014 幅 0.0224 生後 0.161 幅 0.0168 生後 0.0149 × 0.0051 胚門ヨリ胚端 0.0761 幼虫数ハ 胚養セ ルモノヲ變化ナシ	仔犬腸内容中 = レンダルモノ 幼長 幅 等各種ノ大少略々同上大牛 ノ胚養ス	仔犬腸液中 = レンダルモノ 幼長 0.033 幅 0.0227 胚養セルモノヲレリ變化ナシ	人工腸液中 = レンダルモノ 幼長 0.033 幅 0.0227 胚養セルモノヲレリ變化ナシ	人工腸液中 = レンダルモノ 幼長 0.033 幅 0.0227 胚養セルモノヲレリ變化ナシ	人工腸液中 = レンダルモノ 幼長 0.033 幅 0.0227 胚養セルモノヲレリ變化ナシ
150	100	101	172	173	174
60時間	5日	70時間	3日	4日	3日
0.600	0.657	0.689	0.688	0.670	0.601
0.0230	0.0249	0.0256	0.0214	0.0244	0.0240
0.168	0.170	0.169	0.167	0.171	0.163
0.0154	0.0161	0.0166	0.0154	0.0150	0.0154
0.0154 0.0072	0.0154 0.0038	0.0149 0.0068	0.0140 0.0055	0.0148 0.0034	0.0137 0.0055
0.0778	0.0761	0.0796	0.0770	0.0770	0.0796
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
著明ノ發育ナシ	同上	著明ノ發育ナシ	著明ノ發育ナシ	同上	著明ノ發育ナシ

第二次感染後小腸ニ於ケル仔犬及幼虫ノ形態

種	長	幅	食道長	食道幅	生殖腺原 尾端	胚門ヨリ 尾端	口蓋底表 ヲルモノ	胚皮ノ果腹	第一次ノモノトノ比較
大	1.122	0.6656	0.222	0.0342	0.0141	0.0820	1/10	第3回	投モノヨリ發育セルモノハ胚ニ胚門ヲ形成ス
大	0.432	0.0235	0.158	0.0145	0.0059	0.0740	1/10	第3回	
大	1.72	0.0870	0.325	0.0470	—	—	1/10	第3回	大ナルモノハ生殖腺基數個ニ分裂シテ長サヲ増ス
大	1.68	0.0847	0.311	0.0479	—	0.0092	1/10	第3回	大ナルモノハ發育シテ子を明カナリ
大	1.013	0.0335	0.214	0.0256	0.0128	0.0856	1/10	第3回	大ナルモノハ生殖腺基數個ニ分裂シテ長サヲ増ス
大	0.432	0.0224	0.160	0.0155	0.0062	0.0740	1/10	第3回	
大	1.7	0.0813	0.307	0.0470	—	0.0856	1/10	第3回	大ナルモノハ發育シテ子を明カナリ
大	0.150	0.0230	0.159	0.0141	0.0149	0.0804	1/10	第3回	發育ナシ
大	0.619	0.0249	0.166	0.0159	0.0148	0.0737	1/10	第3回	同上

仔犬に犬十二指腸蟲の完熟仔蟲を経口的に感染し種々の時間に幼蟲を採取し、之れを家兎に與へたる場合の蟲體の發育状態

0.658	0.0249	0.157	0.0158	0.0149	0.0706	1/10	ナシ	發育ナシ
0.633	0.0239	0.155	0.0151	0.0128	0.0770	1/10	ナシ	同上
0.652	0.0231	0.163	0.0141	0.0128	0.0728	1/10	ナシ	著明ノ發育ナシ
0.652	0.0235	0.171	0.0131	0.0149	0.0770	1/10	ナシ	同上
0.634	0.0239	0.158	0.0137	0.0141	0.0737	1/10	ナシ	著明ノ發育ナシ
0.652	0.0248	0.158	0.0152	0.0149	0.0812	1/10	ナシ	同上

上記した實驗所見によつて、犬十二指腸蟲の完熟仔蟲は固有宿主の色々な臓器に依つて、比較的短時間作用せられると、非固有宿主たる家兎に攝取せられて一程度の發育を遂ぐる様な性能を與へられるものであるといふことは疑はれないと同時に、之れを爲さないものは、非固有宿主内に於て發育することが出来ないといふ事實も亦認めることが出来ると思ひます、又固有宿主の臓器によつて完全に此の特殊の性能が附與せられると、之れを非固有宿主に與へても、最早其の肺臓内に集る性状は消失して消化管内に止まつて居る、私等は此の事實を利用して完熟仔蟲を仔犬に經口的に攝取させて、色々な時期に其の仔犬を撲殺して、胃及小腸より幼蟲を分離して之れを家兎に與へて見て、肺臓に集る割合及腸管内で發育する状態を検査して見て下の様な成績を得たのであります。

A、仔犬の胃壁及其内容より分離せし幼蟲を家兎に與へたる場合

胃より幼蟲を分離するには、其の内容及胃全體を細碎して Bernini の幼蟲分離器に掛けて得たものを直ちに致へて家兎に與へたので小腸より幼蟲を分離するのものと同様の方法であります。

仔犬の胃より幼蟲を分離したのは經口的攝取後三十分、一時間目、三時間目、六時間目とに行つた、其の所見を概括すると、經口感染後、時間の経過することが短い爲めに、檢出蟲體の大半は肺臓内に見出されて居て、其の發育状態を見ると、三十分で分離したものは殆んど發育はない、其の内に第三回の脱皮をなしたのも極く少数を見られるから、多少の形體を著して見るやも知れない、一時間目に分離した幼蟲の感染に於





種別	時間	家No.	経過時間	體長	體幅	食道長	食道幅	生殖器	肛門	口蓋	第一ノモノト比較										
種口感染後6時間目小腸壁ヨリ	82	2,100,96	"	3,000	077	23.68	155	5.17	22.80	87	2.0	12.85	69	2.3	10.20	253	8.48	37.37	113	3.70	10.09
	83	2,300,91	"	5,000	811	16.22	97	1.94	11.96	11	0.22	1.36	54	1.08	6.06	641	12.82	70.03	8	0.16	0.99
仔大 No. 232	53	2,300,208時間	2,000	1,229	01,40	215	10.75	17.50	95	4.75	7.73	876	48.8	71.28	18	0.9	1.25	25	1.25	2.03	
種口感染後1時間目小腸内	53	1,800,44	"	2,000	536	26.80	232	11.60	73.28	37	1.85	0.90	210	10.5	39.18	86	1.8	6.72	21	1.05	3.02
	54	1,800,68	"	2,000	230	11.50	103	5.1	44.35	39	1.95	10.95	52	2.0	23.61	35	1.75	15.22	2	0.10	0.87
	55	1,700,4	4	2,000	188	9.40	50	2.5	23.59	83	4.15	41.15	8	0.4	4.25	42	2.1	22.34	5	0.25	2.67
	56	2,000,5	5	2,000	119	5.05	16	0.8	13.44	20	1.0	16.80	9	0.45	7.59	69	3.45	58.0	5	0.25	4.2
種口感染後ヨリ	57	2,100,6	"	2,100	240	12.0	12	0.0	5.0	1	0.05	0.42	27	1.35	11.25	134	6.7	55.83	60	3.3	27.5

(第12表)ノ2 仔大ニ種口感染後種々ノ時期ニ小腸ヨリ得タル仔大ニ於テ種口感染セルモノト比較

第一次感染後仔大ノ形態	家No.	経過時間	第二次感染後			於ケル仔大ニ於テ			第一次ノモノト比較
			體長	體幅	食道長	食道幅	生殖器	肛門	
仔大 No. 238 種口3時間目小腸内種口感染後ヨリ 體長 0.642 幅 0.0236 食道長 0.151 幅 0.128 生殖器幅 0.0158 x 0.0064 肛門ヨリ尾端 0.0727 大部分ノモノハ脱糞セルモ發育ヲ阻メズ	75	44時間	0.0682	0.0201	0.100	0.0149	0.0154	0.0727	著明ノ發育ナシ
	76	92時間	0.060	0.0256	0.102	0.0145	0.0145	0.0770	同
	77	6	0.670	0.0201	0.168	0.0151	0.0102	0.0770	同
仔大 No. 239 種口6時間目小腸壁ヨリ 體長 0.660 幅 0.0245 食道長 0.158 幅 0.0245 生殖器幅 0.0151 x 0.0077 肛門ヨリ尾端 0.0770 脱糞セルモ外形變ニ變化ナシ	81	42時間	0.078	0.0252	0.108	0.0145	0.0154	0.0770	著明ノ發育ナシ
	82	66	0.670	0.0239	0.104	0.0141	0.0149	0.0770	同
	83	91	0.678	0.0252	0.106	0.0149	0.0119	0.0750	同
仔大 No. 232 種口0時間目小腸内種口感染後ヨリ 體長 0.029 幅 0.0227	52	20時間	0.640	0.0240	0.158	0.0123	0.0123	0.0727	著明ノ發育ナシ
	53	44	0.669	0.0244	0.160	0.0136	0.0149	0.0727	同

種別	體幅	食道長	食道幅	生殖器	肛門	口蓋	第一ノモノト比較
食道長 0.149 幅 0.0111 生殖器幅 0.0149 x 0.0064 肛門ヨリ尾端 0.0727 形態ノ脱糞セル外形變化ナシ	0.095	0.171	0.0159	0.0214	0.0750	0.705	0.0293
	0.0880	0.164	0.0149	0.0128	0.0727	0.678	0.162
	0.107	0.307	0.0470	0.0128	0.0727	5.713	0.175
	1.56	0.280	0.0470	0.0111	0.0847	0.290	0.170
	0.771	0.180	0.0107	0.0239	0.0847	0.0179	0.0171
	1.222	0.0555	0.244	0.0308	0.0956	0.0162	0.0744
	0.680	0.0790	0.307	0.0128	0.0847	0.0179	0.0770
	1.41	0.0339	0.156	0.0064	0.0727	0.0149	0.0770
	0.731	0.0321	0.184	0.0204	0.0770	0.0149	0.0770
	0.800	0.0308	0.200	0.0111	0.0856	0.0149	0.0770
	2.1	0.1027	0.370	0.0214	0.111	0.0149	0.0770
	1.91	0.0884	0.343	0.0107	0.111	0.0149	0.0770
	2.32	0.1057	0.370	0.0111	0.1241	0.0149	0.0770
	2.01	0.0984	0.352	—	0.1241	0.0149	0.0770

仔大ノ於テ小腸ニ於ケル仔大ニ於テ種口感染セルモノト比較

種別	體幅	食道長	食道幅	生殖器	肛門	口蓋	第一ノモノト比較
第二次感染後小腸ニ於ケル仔大ニ於テ	0.095	0.171	0.0159	0.0214	0.0750	0.705	0.0293
	0.0880	0.164	0.0149	0.0128	0.0727	0.678	0.162
	0.107	0.307	0.0470	0.0128	0.0727	5.713	0.175
	1.56	0.280	0.0470	0.0111	0.0847	0.290	0.170
	0.771	0.180	0.0107	0.0239	0.0847	0.0179	0.0171
	1.222	0.0555	0.244	0.0308	0.0956	0.0162	0.0744
	0.680	0.0790	0.307	0.0128	0.0847	0.0179	0.0770
	1.41	0.0339	0.156	0.0064	0.0727	0.0149	0.0770
	0.731	0.0321	0.184	0.0204	0.0770	0.0149	0.0770
	0.800	0.0308	0.200	0.0111	0.0856	0.0149	0.0770
	2.1	0.1027	0.370	0.0214	0.111	0.0149	0.0770
	1.91	0.0884	0.343	0.0107	0.111	0.0149	0.0770
	2.32	0.1057	0.370	0.0111	0.1241	0.0149	0.0770
	2.01	0.0984	0.352	—	0.1241	0.0149	0.0770





生殖器官基 0.0171 × 0.0085	50	7	0.082	0.0256	0.171	0.0149	0.0198	0.0128	♀ = 1	同	♂ = 1
肛門より尾端まで 0.0727											♂ = 1

其ノ腸及小腸ニ於ケル幼蟲ノ發育狀態

1146

第二次感染後小腸ニ於ケル仔蟲及幼蟲ノ形態

體長	體幅	食道長	食道幅	生殖器官基	肛門より尾端まで	口蓋原基ノ長さ	脱皮ノ狀態	第一次ノモノト比較
0.408	0.0329	0.108	0.0171	0.0214 0.0064	0.0770	♀ = 67.1%	發育大ニ過マリ 全部第3回ノ脱皮ヲ完了シテ大ニ發育シテ大體ニ720時間 目ノモノト略々同シ	
0.015	0.0380	0.201	0.0235	0.0290 0.0149	0.0727	100%		
1.131	0.0642	0.325	0.0428	—	0.0818	同		
♀ 1.04 ♂ 1.10	0.0805 0.0888	0.380 0.345	0.0576 0.0533	—	0.0884	同	生殖器官基ノ長、幅共ニ大ニ増シ腹面ニ向ツテ肛門ヲ 生シ初メ	
♀ 2.1 ♂ 2.1	0.1129 0.1027	0.508 0.562	0.0602 0.0533	—	0.0818	同	肛門ノ中心ニシテ其近所ニ生殖器官ヲ生シ始メ側面ニ割 レ目ヲ生シ脱皮ノ準備ヲナセルモノナリ	
♀ 2.42 ♂ 2.23	0.1198 0.1181	0.398 0.380	0.0642 0.0642	—	0.1241	同	生殖器官基ノ長、幅共ニ大ニ増シ腹面ニ向ツテ肛門ヲ 生シ初メ	
0.733	0.0328	0.201	0.0171	0.0214 0.0107	0.0818	♂ = 61.1%	大體ニ480時間目ノモノヨリモ體ヨク發育セルモノ、如 クモ	
0.008	0.0378	0.180	0.0235	0.0428 0.0171	0.0770	100%		
1.625	0.0734	0.280	0.0428	—	0.0884	同	鉸下ニ♀ヲ區別シ得ラル	
♀ 2.65 ♂ 2.15	0.1134 0.0940	0.308 0.302	0.0619 0.0619	—	0.0888	同	生殖器官基ノ大ニ發育シテ腹面ニ向ツテ肛門ヲ形成ス	
♀ 2.39 ♂ 2.15	0.1078 0.0984	0.371 0.362	0.0620 0.0620	—	0.1155	同		
♀ 4.2 ♂ 4.13	0.1810 0.1712	0.615 0.597	0.0895 0.0895	—	0.1267	同	何レモ脱皮後ノ脱皮ヲ完了シテ子宮、卵巣、果丸、交接 刺ヲ生シ初メタリ	
0.686	0.0316	0.171	0.0184	0.0171 0.0107	0.0727	♀ = 68.0%		
1.205	0.0576	0.258	0.0331	0.0214 0.0107	0.0770	100%	大ニ發育シテ大體ニ滿4日目ノモノト略々同ク發育シテ セリ	

體長	體幅	食道長	食道幅	生殖器官基	肛門より尾端まで	口蓋原基ノ長さ	脱皮ノ狀態	第一次ノモノト比較
1.273	0.0714	0.280	0.0385	—	0.0856	同	100%	
♀ 2.34 ♂ 2.09	0.1124 0.1005	0.407 0.362	0.0620 0.0599	—	0.1156	同	上	♀を非ニ第4回ノ脱皮セルモノナケレドモ口蓋ノ形成 ニ影響ヲ生ジテノ準備ヲナセルモノナリ
♀ 2.85 ♂ 2.4	0.1312 0.1155	0.389 0.362	0.0770 0.0662	—	0.1113	同	上	♀を非ニ第4回ノ脱皮セルモノナケレドモ口蓋ノ形成 ニ影響ヲ生ジテノ準備ヲナセルモノナリ

結論

- 一、六十二指腸蟲 *Analyostoma caninum* の完熟仔蟲は非固有宿主たる「モルモット」内にては發育せず、家兎内に於ては稀に口蓋原基の形成を認むることがある。
- 二、大の肺臟を通過した六十二指腸蟲仔蟲を家兎に經口的に攝取せしめると其の消化管内に於て殆んど總てが著るしい發育を爲すものである、然し感染後時日の経過と共に檢出し得られる蟲數は減少する、之れ固有宿主の場合とは顯著なる相違である。
- 三、六十二指腸蟲の完熟仔蟲は犬の皮膚及皮下組織、肝臟、腎臟、筋肉、結紮小腸、胃内に一定時間止ることによつて家兎に感染後少數ではあるが發育することがある。
- 四、犬の皮膚組織、肺臟、胃壁及腸壁の細碎、食鹽水乳劑内に六十二指腸蟲完熟仔蟲を一定時間入れおくことによつても、同様の現象を認めることがある家兎の臟器に依つて同様の操作をしても、完熟仔蟲は決して發育することはない。
- 五、犬の消化液特に胃液内に一定時間入れておくことによつて、六十二指腸蟲仔蟲は家兎に感染後發育するものがある、然し人工胃液、胃及腸内容等に入れることによつて此の現象はない。
- 六、以上の實驗成績より考察するに、六十二指腸蟲の完熟仔蟲は、一度固有宿主の臟器(特に肺臟)内に侵入する時は、非固有宿主たる家兎、「モルモット」腸管内に於て一程度の發育を遂げ得る性能を附與せられるものであると言ひ得る、言ひ換へると十二指腸蟲仔蟲が固有宿主の臟器特に肺臟に侵入することは極めて有意義の事柄であると言ひ得る。

附圖說明

(大さの單位 mm)

- 第一圖 被養仔蟲を家兎に與へて四日目ニ小腸より得た第三回脱皮後のもの、長〇、九〇五、幅〇、〇三六三
- 第二圖 仔犬に經膚感染後七十二時間目に小腸より得たる幼蟲を「モルモット」に與へて六七時間目に小腸より得たもの第三回脱皮後大に發育す

- 長一、七七 幅〇、〇八八七
- 第三圖 同上、第四回脱皮を行はんとするもの。長二、二五 幅〇、一一七三
- 第四圖 仔犬に経膈感染後二四時間目に氣管より得たる幼蟲を『家兎』に與へて一日目の小腸より得たるもの第四回脱皮を行ひ殆ど成蟲に近きもの。長四、三五 幅〇、一四三三
- 第五圖 同上、第四回脱皮を終了殆ど成蟲に近きもの。長四、二三 幅〇、一八〇八
- 第六圖 仔犬の輸尿管より腎臟へ注入後二時間目に腎臟より得たる仔蟲を家兎に與へて六日目に小腸より得たるもの第三回脱皮後大に發育す。長一、九二 幅〇、〇九四一
- 第七圖 仔犬の門脈より肝臟へ注入後二時間目に肝臟より得たる仔蟲を家兎に與へて四日目に小腸より得たる第三回脱皮後のもの。長一、一九 八 幅〇、〇五五六
- 第八圖 仔犬の筋肉内へ注入後二時間目に筋肉より得たる仔蟲を家兎に與へて六日目に小腸より得たもの第三回脱皮後大に發育す。長一、八四 幅〇、〇八三四
- 第九圖 仔犬の肺臟へ直接注射後二時間目に肺臟より得たる仔蟲を家兎に與へて六日目に小腸より得たもの第三回脱皮後大に發育す。長二、〇 幅〇、〇七二七
- 第一〇圖 仔犬の結紮小腸内へ注入後二時間目に該部分より得たる仔蟲を家兎に與へて六日目に小腸より得たもの第三回脱皮後大に發育す。長一 七四 幅〇、〇七九六
- 第一一圖 仔犬の皮膚及皮下織乳劑中に入れ二時間孵卵器に置きたる仔蟲を家兎に與へて五日目に小腸より得たるもの第三回脱皮後よく發育す。長一、六 幅〇、〇七九一
- 第一二圖 仔犬肺臟乳劑にて同上の處置せし仔蟲を家兎に與へて四日目に小腸より得たる第三回脱皮後のもの。長一、一四〇 幅〇、〇五五六
- 第一三圖 仔犬胃壁乳劑にて同上の處置せし仔蟲を家兎に與へて四日目に小腸より得たる第三回脱皮後のもの。長一、二〇三 幅〇、〇五九九
- 第一四圖 仔犬の小腸壁乳劑にて同上の處置せし仔蟲を家兎に與へて五日目に小腸より得たる第三回脱皮後よく發育せるもの。長一、六六 幅〇、〇八〇六
- 第一五圖 大胃液中に入れ二時間孵卵器に置きたる仔蟲を家兎に與へて五日目に小腸より得たる第三回脱皮後大に發育せるもの。長一、七二 幅〇、〇八七〇

第一六圖 大腸液中に入れ同上の處置をなしたる仔蟲を家兎に與へて五日目に小腸より得たる第三回脱皮後大に、發育せるもの。長一、七 幅〇、〇八一三

第二一表

